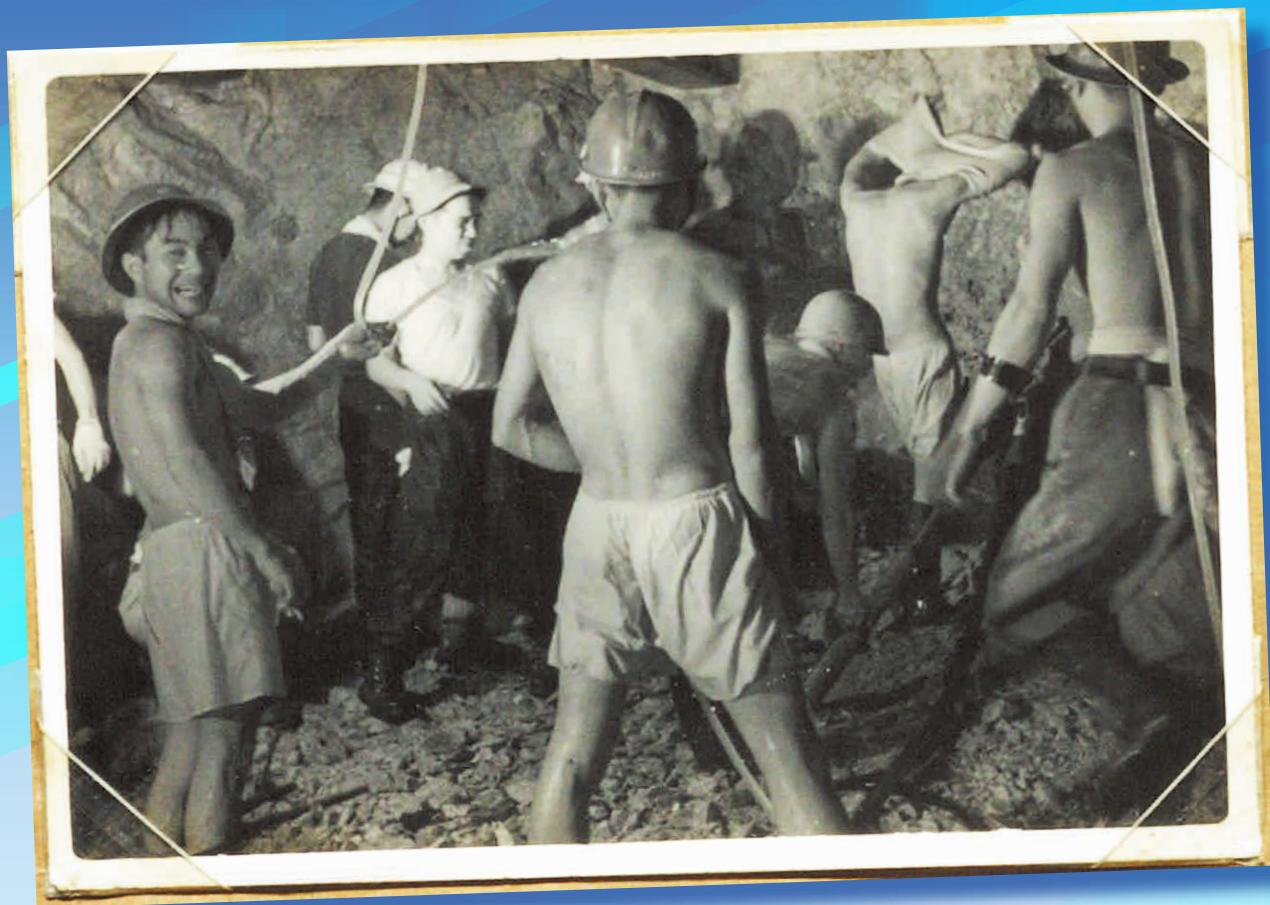


寿建設通信

2026
創刊号

9月15日
発行

見えないところで社会を支える寿建設の社外報



Q 昭和30年代のトンネル工事

トンネル内の岩盤、**最高温度**は^{n a n d o}何度？

A

42℃

熱めのお風呂

B

88℃

沸騰直前のお湯

C

175℃

天ぷらを揚げる油

気になる答えは中面でご紹介。 **寿建設の歴史にタイムスリップ！**

答えは **C** 175℃

Story

寿建設ヒストリー

それは「高熱^{ずいどう}隧道」と呼ばれた 超過酷なトンネル工事だった。

「世紀の難工事」——そう呼ばれた黒部川第四発電所（通称・くろよん）の建設に、寿建設の前身・森崎工務所は挑みました。舞台は昭和30年代。高度経済成長期に入った日本は、深刻な電力不足に見舞われていました。すでに稼働していた黒部川第三発電所に加え、より大規模な黒部川第四発電所の建設が決定。その下流では、新黒部川第三発電所の工事も進められました。

ここで待ち受けていたのが、岩盤の温度が異常に高い「高熱隧道」。工事記録によれば、最高温度はなんと175℃。水の沸点をはるかに超え、ダイナマイトが自然発火、暴発するほど過酷な現場でした。それでも当社の前身は、大きな事故を起こすことなく工事をやり遂げたのです。



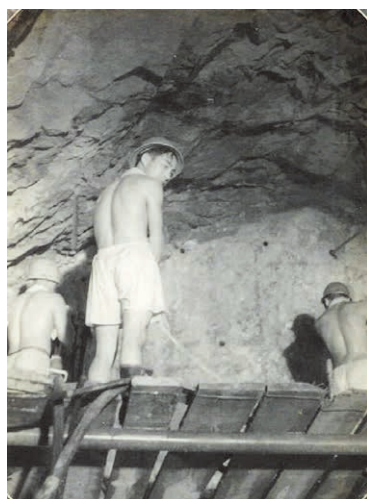
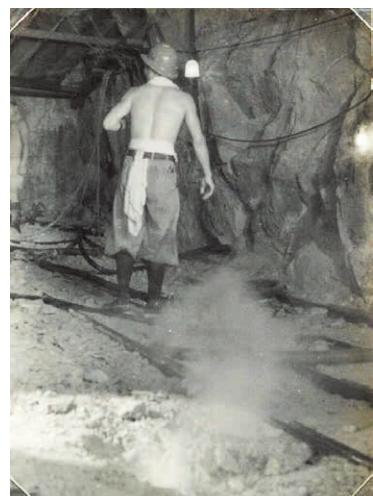
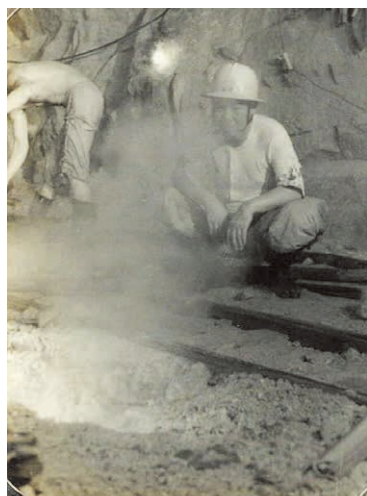
高熱隧道内をホースで水をかけて冷却している様子



黒部ダムに貯めた水を利用した発電所の建設は困難を極めました。



昭和31年から7年の歳月をかけて築かれた黒部ダム。豪快な観光放水は、今も多くの人を惹きつけています。



「くろよん」トンネル工事の様子を伝える貴重な写真（当時、大成建設に所属し、森崎工務所の担当だった太田資倫（すけのり）さん所有。太田さんは平成7年より当社工事部長に就任）。左上の写真は、高温蒸気の噴き出しを目視している創業者・故森崎鼎（かなえ）。

現場担当者の声

寿建設OB 後藤一身さん インタビュー

土木学会「魅力ある土木の世界発信小委員会」による黒部川水力発電関係者インタビュー・アーカイブ企画。
上記の高熱トンネル施工に携わった、後藤一身さんの生の体験談が公開されています。

（インタビューア：寿建設 森崎英五朗会長）



好評公開中
全5話



KOTOBUKI NEWS

社内



20年ぶりの社長交代

8月21日開催の株主総会にて、森崎達之助（前副社長）が新社長に就任いたしました。1996年以来、実に20年ぶりとなる社長交代です。前社長・森崎英五朗は、会長に就任いたしました。



トピックス



豊後土工のDNA、各地で反響

YouTubeにて、寿建設設立60周年を記念して制作した作品「豊後土工（ぶんごどっこ）のDNA」の動画が公開されています。今年4月より各種イベントでも上映され、大変ご好評をいただいております。「高熱隧道」（左ページ参照）施工中の貴重な映像も収録しております。ぜひ、ご覧ください。



コチラを
チェック!



受賞



カレンダー「重機の旅」が全国表彰

（一社）全国建設業協会の「建設業社会貢献活動推進月間中央行事」において、当社カレンダー「重機の旅」シリーズの取り組みが「広報功労者表彰」を受賞し、事例発表の機会もいただきました。



事例発表の動画は
コチラ!



現在施工中



国道4号・13号、維持管理の最前線

福島県の主要幹線道路である国道4号（本宮市～伊達郡国見町）および国道13号（福島市杉妻町～森合町）、合計延長58.6kmの区間において、除草・舗装補修・除雪などの維持管理工事を担当しています。



喜ばせる技術、選ばれる企業

私たちは、見えないところで社会を支え続けるプロフェッショナル集団です。
確かな技術と誠実な仕事で、未来の安心と信頼をつくります。



トンネル工事



メンテナンス工事



土木工事

スマホでつながる寿建設♪

HP



Instagram



X



Facebook



女性カメラマンが とらえた寿建設の現場



インフラメンテナンス 日本列島365日、
道路はこうして守られている
2,200円(税込)



国際的に活躍する女性写真家・山崎エリナさんの写真集です。
山崎さんが寿建設の工事現場に密着し、現場で働く人たちの横顔、
工事現場のスケール感を余すところなく伝えています。

現場には
誇りと物語が
あった



トンネル誕生 2,420円(税込)



トンネルは
未知の
洞窟だった!?

テレビ番組で寿建設が 施工したトンネルを紹介

福島県内の情報番組で、寿建設が
施工した川俣町山木屋地区のトンネル
が紹介されました。番組には森崎
会長が出演し、トンネル内部で耐久
性の高いコンクリート舗装を採用し
ている理由や、「貫通石」にまつわ
るエピソードなどを紹介。普段は意
識することの少ないトンネルの工夫
や役割を通して、地
域の暮らしを支える
建設業の魅力を伝え
ました。



トンネルの
秘密に
迫れ!



YOMOYAMA
KOTOBUKI

まじめな話も、
ちょっとゆるい話も。
寿建設のよもやま話を
お届けします。

現場のアイデアから生まれた 大ヒット商品「ハツリ・ガード」

アスファルト舗装などを削る「ハ
ツリ作業」は、破片が飛び散らない
ような安全対策が不可欠でした。
この課題を解決したのが、寿建
設の若手社員のアイデアから生
まれた「ハツリ・ガード」です。
工具の先端に直接メッシュカ
バーを付ける逆転の発想で、破片
を根元でキャッチ。中が見えて扱
いも簡単のため全国で大ヒット!



ガガガガガを
全部
受け止めます!



貫通光シリーズ① 国道114号・関場トンネル(川俣町)

国道114号・関場トンネル(234m)は令和3年
4月(2021年)に工事を開始し、令和4年(2022年)
3月2日に貫通しました。トンネルがつながる、
その瞬間をぜひ動画でご覧ください!



貫通の瞬間は
コチラ!



Present

寿建設通信創刊号を記念して、先着60名様に
イラストレーター武者小路晶子さんによる
「寿建設オリジナル切手シート(85円・110円)をプレゼント!
ご希望の方は、当社担当までご連絡ください。

メールでのご応募はこちら! → kotobuki@kotobuki-c.co.jp



次号予告

Vol.2は、2026年
12月中旬頃
発行予定です。
お楽しみに!